

頑張って入学したにも関わらず、一定数の学生が大学や専門学校を途中で辞めています（中途退学）。思い描いていたものと実際が違う現象を「ミスマッチ」と呼びますが、「ミスマッチ」という言葉自体も、以前と比べて普及したように感じます。中途退学者には何か特徴があるのでしょうか。今回は中途退学を科学していきます。

6. 中途退学を科学する

客観から見える現実

頑張って入学したにも関わらずなぜ中途退学が起こるのでしょうか。実は中途退学した学生を調査した結果、いくつかの傾向とパターンがあるとわかりました。それが以下の表です。

	退学パターン	特徴
初期型	典型的初期型	高卒就職が困難であったために進学。低偏差値、低評定平均が目立つ。
	学科ミスマッチ型	安易な学科選択をした結果失敗。
	人間関係苦手型	友人 10 人未満。コミュニティに未所属。
失速型	典型的失速型	1 回生後期からの低出席率
	隠れ不満足型	高評定、高 GPA（成績評価値）だが、教育や授業展開に不満足。
突発型	貧困型	金銭的に困難。

(NPO 法人 2017.11.7 シンポジウムの配布資料より抜粋)

初期型を見てみると、学力が大きく不足している、進路設計が甘い、コミュニケーション能力が不十分である等が大きな要因となっています。典型的失速型は、長いながい夏休みを経て心が大学から離れてしまったためと考えられます（大学は夏と春それぞれ 2 ヶ月ほどの長期休暇があります）。隠れ不満足型は「行けるところへ行った」学生の声でしょうか。実際、中日新聞教育報道部によると、大学進学者の 37% が「合格できそうだったから」という理由で進学しています。その後の文部科学省の調査で、その選択に満足している学生はなんとたったの 27% でした。一方で、「将来就きたい仕事と関連しているから」という理由で進学した学生は満足度が 50% に達しています。進学先を幅広く、そして深く調べる事がいかに重要かを伺えますね。「行けるとこに行く」で終わらせるとそれなりの未来が待っています。大学の下調べを面倒くさがらず、地道に続けていきましょう。

心構えを整えよう

高校の授業なんてこなしておきながら知識を暗記してテストの点を取ればいいと高を括っていませんか。学力は当然ながらすぐ身に付くものではありません。かりそめの学力で入学しても求められている能力が備わっていなければ、上記のパターンに陥り退学という結末を迎える可能性は誰しもが持っているのです。進路先は 1 つ調べて終わったりしていませんか。他の可能性を保護者や先生に委ねていませんか。進路設計も待っていれば用意されるものではありません。進学した後も胸を張って活躍できるよう、進路への心構えを改めてみてはいかがでしょうか。